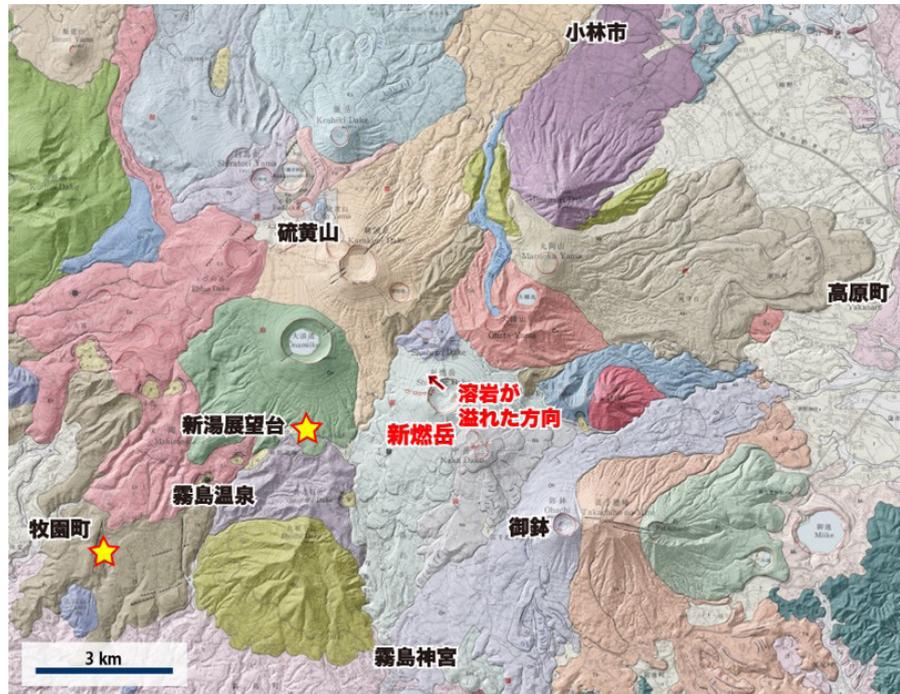


霧島山新燃岳 2018年噴火に関する調査結果 [2018年3月]

地質調査総合センター¹⁾

<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kirishima/2018/index.html> より転載，一部追記

2018年3月1日，霧島山新燃岳(第1図)で2017年10月以来約5ヶ月ぶりに噴火が発生しました。産総研地質調査総合センター(GSJ)では，3月2日夕方までに噴煙が活発化したことを受け，3月3日から研究者を現地に派遣するとともに，気象庁等とも協力の下，噴出物の観察や分析等を進めています。調査結果は随時公表していきます。



第1図 新燃岳の位置と定点写真撮影地点(★印)。霧島火山地質図(井村・小林，2001)に陰影を重ねたものを切り出して作成。



写真1 2018年3月14日霧島山新燃岳北西側上空より。手前の舌状の部分が火口縁からあふれ出た溶岩流。奥の山は高千穂峰。



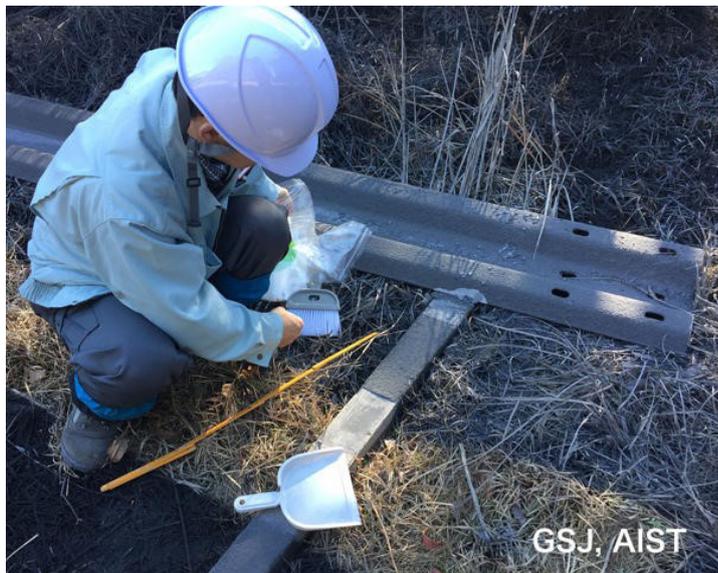
写真2 2018年3月9日15時56分霧島山新燃岳の北西側火口縁の溶岩流(火口南西約3km;新湯展望台より)。

1) 産総研 地質調査総合センター



GSJ, AIST

写真3 火口南西約8kmの牧園町展望所から見た新燃岳の噴煙(3月4日午後).



GSJ, AIST

写真4 火山灰採取の様子(3月4日午後, 霧島市牧園町).



GSJ, AIST

写真5 火山灰が付着した松葉(3月4日午後, 霧島市牧園町).



GSJ, AIST

写真6 3月6日夜間に霧島山新燃岳の南西方向(火口から約3km)で採取した発泡した火山礫.



GSJ, AIST



GSJ, AIST

写真7 3月9日9時36分(左)と10時40分(右)(牧園町展望所より). この間の10時10分頃に火口縁から溶岩流が流出しているのを目視で確認した.



写真8 写真9

3月9日15時58分の爆発的噴火。15時58分の噴火では噴煙が火口上空3,200mに達した(新潟展望台より)。

写真10(右)

3月9日～10日の溶岩流の時間変化。9日はゆっくりと前進し変化が少なかったのに対し、10日はやや変化が大きかった(牧園町展望所より)。



写真 11 (左) 3月14日セスナ機を用いた火山ガス観測の様子。

写真 12 (下) 3月14日火山ガス観測と並行し火口内を観察。火口内の溶岩の上に大きな投出岩塊がのる(霧島山新燃岳北側上空より)。



噴出物の解析結果



写真 13 (左)3月6日夜間の火山灰。ガラス光沢のある黒色粒子(G)が多いのが特徴。(右)3月7日11時頃の火山灰。淡色で発泡したガラス光沢のある粒子(P)が多い火山灰に変化した。写真中の「図1」を含む詳細はGSJウェブサイトの火山噴火予知連絡会資料を参照。



写真 14 3月6日夜間に採取された灰色軽石。本試料の全岩化学組成を測定した結果、 SiO_2 含有量が約58%の安山岩質の軽石であり、2011年噴火の際の灰色軽石とほぼ同じ化学組成を持つ。詳細はGSJウェブサイトの火山噴火予知連絡会資料を参照。

文 献

井村隆介・小林哲夫(2001)霧島火山地質図。火山地質図11, 地質調査所。